



第62号2018年 町田

俊風会
NEWS

希望の党 衆議院議員
伊藤しゅんすけ
Shunsuke Ito

発行元:伊藤俊輔連合後援会
地元事務所〒194-0021
町田市中町 2-6-11 サワダビル3F
TEL 042-723-0117 FAX 042-729-7935
国会事務所〒100-8982
千代田区永田町 2-1-2 衆議院第 2-1122
TEL 03-3508-7150 FAX 03-3508-3640

町田市議選挙で公認推薦候補ともに上位当選！

現在国政は「希望の党」伊藤しゅんすけ(衆議院議員)地方は「都民ファーストの会」おぐざわ高広(都議)が管轄をし、両党協力関係で国と都と市の連携を進めております。町田市議選では、都民ファーストの会公認「おぜき重太郎」4016票で2期目、推薦「白川てつや」3775票で3期目の当選することが出来ました。次の世代に向けた新しい政策を掲げさせて頂き、スピード感をもって実現へ、ワクワクする町田市を創ります。



国交委員会にて公団住宅(UR)について質問に

2/26予算委員会分科会にて公団住宅(UR)の現状と課題、建て替えや家賃、空室対策にバリアフリー(エレベーター設置等)、商店会などについて質問に立たせて頂きました。日本は急速な少子高齢化を迎え、現在世帯数5200万戸に対し住宅は6063万戸あり、約863万戸住宅が余る時代となり、住宅政策の転換を図ってきました。イギリスのニュータウン計画をモデルに多摩ニュータウン等も時代の大きな役割を担って参りました。イギリスは、人口構成などを考えて入居したため、うまく機能していますが、日本は、当時同世代の30代40代の中堅勤労者が入居したために40年経って一気に高齢者中心になっております。多摩の小中学校も12校が統廃合されました。40年を過ぎた団地の建て替えと共に、これまで住まれてきた方々の大切なセーフティーネットとしては勿論、人口構成なども考慮し、また脱原発時代に再エネ、省エネ、自家発電などの積極的な活用で、新たな町づくりのビジョンと描き、引き続き公団住宅の多様な役割を求めて参ります。

公団住宅の空室対策について

私もこの5年間、地元団地を歩かせて頂き、空室にはポストに鍵がかけられておりますが、改めてその多さに驚きました。例えば、町田市では鶴川団地は、1682戸のうち434戸で空室率26%、藤の台団地は2227/560で25%、山崎団地は3300/650で20%、多摩市の貝取団地は452/103で23%、永山団地は3009/523で17.4%といずれも20~30%の空室率になっております。このことで団地の商店街がシャッター通りになっている要因にもなっております。民間の経営感覚からみれば、考えられないことです。住宅公団(UR)も現在14兆円の赤字を抱えている中で、まず空室を埋めることが最優先と考えます。商店街も同様です。



公団住宅の家賃について

東京多摩公団住宅自治会協議会で2017年9月に実施されたアンケートで30団地15982戸の回答では公団に住み続けたいと82%、家賃の負担が重たい82%でした。また年金受給世帯は69%、うち年金だけの世帯は48%で、年収242万未満世帯が43%、200万未満世帯が30%を占めております。つまり、年金のみの生活者が増え、年齢とともに所得が少なる一方で家賃の比重が重くなっている現状です。そして公団(UR)は、近傍同種家賃という近隣と比較し、その相場家賃を近づける考えであり、各団地にて家賃が上がっているケースも多くあります。40年以上たった古い住宅の家賃を上げたら空室が増えることも当然で、民間も築が古くなれば家賃が下がるのが一般的です。古い団地の家

賃は上げるべきではないと思いますし、家賃を下げてでも空室を埋めることのほうがプラスだと思います。家賃の減免を定めた機構法25条4項が適用されていないケースにおいても適用範囲も拡充を求めます。

公団住宅のバリアフリー(エレベーター設置)について

まだ団地のほとんど5階建てでエレベーターが設置できておりません。高齢者の方々は勿論、若い世代でも左手にベビーカー、右手に買物袋、赤ちゃんを抱いて3階4階5階まで上がっていくのは大変です。家賃が上がらずにエレベーター設置できるように要望をしていきます。

俊輔の地元政策

町田市は、8年連続交付団体となり、待機児童も3年連続増加で229人、生活保護も年々増え続けて5454世帯7749人、長年、道路インフラの渋滞や他県との競争にも衰退の道を進んでいると感じます。救急車が1年2041回出動し、病院の受け入れ環境や救命救急(大学)病院もなく、処置ができない場合は、他県に任せるしかありません。地域のポテンシャルも活かしきれずに、新しいことに挑戦することもできておりません。これからの町田市を真剣に考え、国と都と市が連携し市政にも思い切った政策を提言して参ります。皆様と新しいまちづくりに挑戦したいと思います。

- ・町田市民病院を大学病院並みに
- ・首都圏一の魅力ある「農と緑と住」の国営公園(北部丘陵構想)
- ・団地問題(家賃上げない、バリアフリー(EV)、空室対策、建て替え、商店街の活性化)
- ・多摩都市モルール延伸と小田急多摩線の延伸の早期実現
(多摩センター駅—野津田競技場—鶴川駅—TBS—こどもの国の南北を結ぶモルール新構想の提案)
- ・鶴川駅南口ターミナル実現で駅前渋滞解消と橋上駅で急行停車駅に(三輪緑山のアクセス向上)
- ・相原駅前横浜線アンダーパス着手、八王子医療センターへの直通バスの実現
- ・オリパラ町田市も自転車ロードレースの会場に
- ・再生可能エネルギー支援、脱炭素化(CO2削減)支援
- ・町田市を(自主財源で運営できるように)不交付団体へ、待機児童ゼロ、障がい者福祉支援

伊藤俊輔プロフィール

- ・1979年8月5日 町田市生まれ 町田市在住
 - ・富士幼稚園卒 ・桐蔭学園小・中・高・大卒
 - ・中国北京大学留学 ・中央大学経済学部卒業
 - ・会社経営元役員 ・維新政治塾1期生
 - ・第46回47回衆議院議員選挙 次点
 - ・第48回衆議院議員選挙76450票 初当選
- 主な役職/国土交通委員会/原子力特別委/議院運営委員会/党国対役員/原発ゼロの会/日中友好議連/日独友好議連/日本パプアニューギニア議連/障がい・難病政策推進議連/旧公団居住安定化推進議連

早朝の駅頭、私の原点です。



皆様のお声を是非お聞かせください。返信 FAX は 042-729-7935 までお願い致します。

ご氏名:

TEL:

FAX:

ご住所:

MAIL:

HP

<http://www.i-shunsuke.com>

Mail

officeshunsuke2012@gmail.com

Twitter

http://twitter.com/shunsuke_ishin

FB

<http://www.facebook.com/shunsuke.ishin>

